

障害分野における重点研究課題

国立身体障害者リハビリテーションセンター 研究所

障害分野の総合課題

脳障害者の社会復帰

- 背景:[ライフ 2.(1)③、3.(3)③]
 - － 高次脳機能障害者に関する社会的ニーズの高まり
 - － 脳研究による技術シーズの展開
 - － 脳障害による感覚・運動機能障害を含む
- 目標:
 - － 脳障害の診断、予測手法の確立
 - － 社会参加のための福祉システム、社会環境の開発
 - － 日常生活・社会参加支援技術、支援機器の開発

障害予防部門の重点課題(1)

先端医療を活用した診断技術の開発

- 背景:[ライフ 2.(1)①③、3.(1)①④、(3)①②、7.④、4.(3)]
 - 脳研究、遺伝子研究、バイオインフォマティクスの障害領域への活用と、福祉システムへの展開
- 目標
 - 光トポグラフィーによる診断技術の開発
 - 国産技術の急速な展開による産業化の加速、輸出産業の振興
 - 障害因子の遺伝子診断技術
 - 網膜色素変性症、神経変性症、ALSなど
 - 体質にかかわる遺伝子診断とバイオインフォマティクスによる健康管理
 - 障害の診断・予測に伴う当事者、家族、職場、コミュニティへの支援のあり方の開発

障害予防部門の重点課題(2)

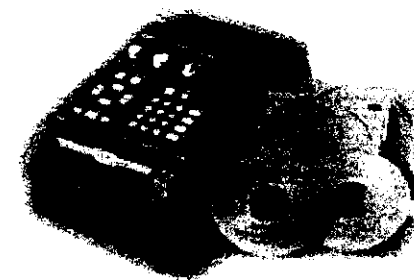
医工学連携による障害・寝たきり予防

- 背景:[3.(1)⑦、(6)①]
 - － 医学と工学の連携による高齢者の障害・二次障害の予防
- 目標:
 - － 低侵襲手術の開発:
 - 骨疾患、骨折の内視鏡・コンピュータ手術、手術ロボット
 - － 廃用性症候群の予防:
 - 拘縮予防ロボット、拘縮治療ロボット
 - － 高齢者用フィットネスシステム
 - 水中訓練、薬物投与を含む安全な訓練システム、インテリジェント訓練用具
 - － 再生医療・再生工学
 - 脊髄損傷 --- 神経幹細胞

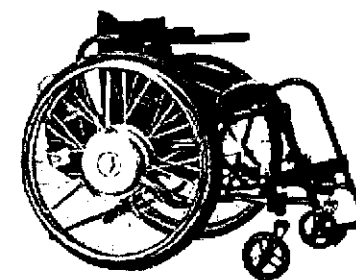
福祉機器部門

開発における主要な視点

- 高齢障害者への対応
 - 家電製品と共通した観点
- これまでの反省事項
 - 開発戦略、社会的インフラとの対応
- 輸出産業への視点：成功例 =>
- Appropriate technology



Plextalk



Yamaha JWII

福祉機器部門の重点課題(1)

日常生活支援ロボット

- 背景：
 - ロボット技術を障害者、高齢者の日常生活支援に活用
- 目標：
 - 食事、排泄、移動・移乗、搬送、入浴、身辺処理、就労、アミューズメント、在宅モニタリングなど
 - 産業化の視点、開発すべき技術要素の吟味がポイント

福祉機器部門の重点課題(2)

ITを活用した福祉機器

- 背景:[情報 2.(1)①、(2)①イ、]
 - ITインフラの進展を活用し、障害者、高齢者の社会参加を促進
- 目標:
 - ブロードバンド、次世代携帯を活用した知的障害者の訓練、就労、社会参加支援機器
 - コンテンツ、マン・マシン・インタフェースがポイント
 - Daisyの高度利用
 - 国産・世界標準の普及・活用、web環境、コンテンツ開発環境
 - IT活用のためのインタフェース技術
 - インタフェースのインテリジェント化(単語予測、漢字読み上げの標準化など)
 - 情報家電と一体化したIT機器の福祉への活用
 - 次世代インテリジェントハウス

福祉機器部門の重点課題(3)

高齢社会におけるユニバーサルデザイン

- 背景：
 - 高齢社会に適合したユニバーサルデザインの新たな展開
 - 障害の種類、時間要素、環境要因、文化要素等にユニバーサルな設計原理
- 目標：
 - 車いす(手動、介助用、電動)、介護用ベッド、浴槽、便器、リフト、歩行補助器、食事用具、
 - 高齢者対応のためのIT機器のユニバーサル化(入出力のハードウェア、支援ソフトウェア)

障害福祉部門の重点課題(1)

重度重複障害に関する総合的支援

- 背景：
 - － 重複障害対策のための基本的視点を確立
 - 高齢化に伴って重度の重複障害も増大。
 - 重複障害者の70%が65歳以上、高齢障害者の7.8%が重複障害。
 - 障害児の7.4%が重複障害(全体では5.9%)
- 目標
 - － 高齢重複障害者の実態と支援
 - － 低年齢重複障害児の実態と支援

障害福祉部門の重点課題(2)

国民的ニーズに基づいた施策の開発

- 背景：
 - － 障害者、高齢者をはじめとする福祉施策のための国民的合意の形成
- 目標：
 - － 福祉施策の経済効果の計量
 - － 国民的ニーズの評価と合意形成過程